

裏献金疑惑による猪瀬氏辞職に伴う東京都知事選挙について ～宇都宮けんじ氏がもっとも都知事にふさわしい候補者として応援します～

2014年1月16日 大田区職労執行委員会

執行委員会は先の東京都知事選挙において2012年12月5日、「都知事には宇都宮けんじ氏がふさわしいとして、宇都宮氏の奮闘を期待する」見解を発表し、組合員の皆さんへの投票を含む選挙への積極的参加を呼びかけてきました。結果は同氏の健闘及ばず、猪瀬直樹氏が当選となったものの、猪瀬氏は「徳州会からの5000万円裏献金疑惑」で辞職、1月23日告示、2月9日投票で都知事選挙が行われることとなりました。

宇都宮健児氏（前日弁連会長・年越し派遣村名誉村長）は「新しい東京を、始めよう 希望にまちへ ①世界一働きやすい都市へ ②カネと利権の東京から決別 ③だれもが元気になれる五輪開催を」をかけて、1月6日再び立候補を表明しました。

前回は石原前都知事の後継候補として立候補した猪瀬氏（結果433万票当選）と脱原発と福祉充実などを掲げ石原都政からの転換と教育現場をはじめ東京にやさしさと民主主義を取り戻そうと訴えた宇都宮氏（結果96万票2位）との対決となりました。

今回は現時点で宇都宮候補の他、元厚生労働大臣舛添氏、元首相細川氏、元空自幕僚長田母神氏等が出馬表明及び出馬の意向を示しているところですが、執行委員会は宇都宮氏がかかげる政策は区職労の運動方針に一致し、都民本意の都政実現に向けてもっともふさわしい候補者であることを、あらためて表明するものです。

具体的には選挙確認団体「希望のまち東京をつくる会」のホームページにある「私も応援します」を通して応援することを伝え、同時に区職労として応援できる範囲について議論し取り組みを進めます。なお、この段階でこれまで同様不当弾圧については運動方針にもとづき対応すること、取り組みに関わっての犠牲規定の適用、同時に諸行動について諸給与規定の適用は行わず自発・無償の取り組みとすることを確認しました。

また、宇都宮候補を応援する団体・組織が区内をはじめとして開催する集会等については役員を中心に可能な限りお知らせしていきます。同時にこれまで同様区職労ニュース等において運動方針に沿って政治啓発情報宣伝活動を行っていきます。上部団体である自治労都本部には宇都宮候補を応援することを決め取り組むことを要請します。

2012年10月石原慎太郎氏は「新党立ち上げ・党首、総選挙出馬」等を理由に任期途中で都政を投げ出しました。その後継者として担がれた猪瀬直樹氏は2013年12月裏献金疑惑で辞職しました。このような候補者を推薦・支持してきた政党・団体は少なくともその総括を行い、反省を都民に明らかにし、新たに候補者の推薦等を行うべきであることも述べておきます。この点では前回、臨時三役会で「猪瀬支持」を決定して取り組んだ自治労都本部が加盟する連合東京も同様であることも触れておきます。なお、上部団体である自治労都本部は自主投票としました。

この間の「自民党型都政」のもと、都民の福祉、くらしに関わる予算は大きく見直され例を挙げれば都営住宅新規建設はゼロ、高齢者1人あたりの老人福祉費は全国で5割も伸びている中23%の削減、区市町村の国保への都独自支援も大幅にカットされています。これら都政上の課題だけでなく、都知事選挙は脱原発か原発推進かも大きな争点となります。憲法、米軍基地やTPP等の問題でも各候補者がどのような政策をとるか、今後の国政そして私たちのくらしに大きな影響を与えることは間違いありません。

組合員のみなさん、宇都宮候補をはじめ他の候補者の政策宣伝、ビラなどをよく見聞していただくことを訴えます。政策・課題について職場・家庭・地域における討議や対話、都内在住の方は投票はもちろんのこと、都知事選挙に積極的に参画されることを呼びかけるものです。

東京都知事選挙の結果について

～宇都宮健児氏の健闘、引き続き献金疑惑真相究明と都民要求実現をめざします～

執行委員会は2月9日投票の東京都知事選挙において、1月16日、「宇都宮健児氏がもっとも都知事にふさわしい候補者として応援します」という見解を発表し、組合員の皆さんへの投票を含む選挙への積極的参加を呼びかけてきました。

執行委員会は「自発・無償の取り組みとすること」を確認、執行部・支部・補強組織役員の皆さんに行動日程等をお伝えし取り組んできました。この間、奮闘された皆さんに、心から敬意を表するものです。

結果は宇都宮氏の健闘及ばず、舛添氏の当選となりました。大雪の翌日、投票率が46.14%（前回2012年12月：62.60%）に下がったなかで、宇都宮氏は前回の得票を1万3634票、得票率も20.18%（前回より5.14ポイント増）獲得する健闘でした。（別表参照）

宇都宮健児氏は「新しい東京を、始めよう 希望のまちへ ①世界一働きやすい都市へ ②カネと利権の東京から決別 ③だれもが元気になれる五輪開催」をかかげ、具体的には保育所や特別養護老人ホームの待機者解消、都営住宅の大量建設、ブラック企業規制条例、原発ゼロ・被爆防止など幅広い都民から寄せられた要望を政策に取り込み、その実現を訴え、これらの政策と主張は都民の中に次第に支持と共感を広げたと思います。

舛添氏は、選挙期間中「東京を世界一の街にする。福祉も、防災も、経済も。2020年のオリンピック・パラリンピックを成功させる」と訴え、具体的に踏み込んだ内容に触れることは少なかったものの、当選後の記者会見では「待機児童について4年間でゼロにする。特養を含めて待機高齢者の方々も万単位でおられますので、これも全力を挙げて減らしていく」「防災対策について、電柱の地中埋設、交通体系全体の見直し、木造密集地対策、水害対策、こまかに現地を歩いて大きな都市改造プランをつくりたい」と表明しています。これら一つ一つについて、今後は都民の願い・要求に沿った内容にさせていくことが重要です。「この東京が、お年寄りも若者も、障がいのある人もない人も、女性も男性も誰もが希望を持って生きられる。そういう東京をつくりたい」という、宇都宮氏の訴えそのものを文字通り具体的に実現していくために、引き続き奮闘していきましょう。

また、今回の都知事選は猪瀬直樹氏の徳州会からの5,000万円裏献金疑惑に伴う辞職からおこなわれたというところをあらためて想起し、舛添氏の政治とカネに関わる問題も取り込まれていることから、その真相究明も引き続き求めていく立場です。

同時に今回の選挙結果に関わって、政府・自民党関係から「原発の再稼働は認められた」旨の発言がされていますが、「脱原発」の政策で訴えた宇都宮氏と細川氏の得た票数は200万票近く、当選した舛添氏に迫るものであったことも重要であり、引き続き、3月9日、15日の「脱原発」集会等にも積極的に参加し、その早急な実現をめざします。

なお、大田区職労は1月17日上部団体である自治労都本部に対し、「宇都宮健児氏を応援する取り組みを行うこと」を文書で要望しましたが、21日の都本部単組代表委員会で「自主投票とする」ことが提起され承認されるという結果となりました。また、自治労都本部の上部団体である連合東京は18日臨時三役会において多くの単産（産別構成組合）が「反舛添」の意見表明をする中、「会長一任」の取り扱いとなり、結果「舛添氏支援」を決定（各単産の決定は拘束しないことを前提に）していることを合わせて報告しておきます。

【別表】主な候補者の得票（確定・投票率 = 46.14%）

氏名	年齢	得票数	経歴	所属	推薦・指示
宇都宮けんじ	67	982,594	元日弁連会長	無	共産党、社民党が推薦
舛添 要一	65	当 2,112,979	元厚生労働大臣	無	自民党、公明党が推薦
細川 護熙	76	956,063	元総理大臣	無	民主、生活、結いが支援
田母神俊雄	65	610,865	元航空幕僚長	無	石原元知事が支援

